

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201819		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 コスモス		
所在地	長崎県佐世保市南風崎町119-4		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりがいつまでも自分らしく生活出来る様に、職員は理念を共有し、支援をしています。職員自身も環境の一部であることを常に念頭に置いて、敬いの心を持って、その人に合った支援に取り組んでいます。どなたが面会に来られても、いつでも居心地良く安心できる環境作りを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は事業所開設14年を経て職員に浸透し、理念に沿った支援を話し合いケアプランに繋げている。日々の暮らしの中で、利用者に役割と居場所をつくる支援や利用者別の写真を掲載し、生活の様子を伝える事業所便りは、家族に喜ばれている。また、家族同伴の受診や外食、外出など家族を巻き込む取組みがあり、家族の面会は多く、支援の随所に理念の具現化が見られる。母体医院の毎日の往診や週1回の訪問看護、緊急時の24時間医療連携体制は、利用者・家族、職員の安心と信頼を得、看取りの事例の多さに繋がっている。運営推進会議は、地域の保育園や自治会員が参加し、活発な意見交換があり運営に活かされている。家族と地域の協力を得て、利用者がいつまでも自分らしく過ごせるよう、更なる理念の具現化を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やフロアーに掲示し職員全員で理念を共有し実践に繋げている。	法人理念と介護目標があり、理念は玄関、職員休憩室、職員トイレに掲示し、理解を深めている。また、職員ミーティングで、取り上げ理念に沿った支援を話し合っている。生活の中に利用者の役割があり、継続することで生きがいと居場所作りに繋げるなど理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や理美容を利用したり地域の清掃活動に参加し交流を深めている。	事業所では地域の一斉清掃前に毎回、空き缶拾いを実施し、町内会から感謝されている。また、地域の避難訓練の参加や地域行事に利用者と一緒に参加する等、繋がりを深めている。地域の保育園児の年4回の訪問やは地域の商店を利用して食材を購入するなど地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動に参加し交流していくように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し行事や利用者の状況を報告し意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	年6回、法人系列のグループホームと合同で開催している。会議には地域住民や家族、地域の保育園長の出席があり、全ての運営推進委員から発言があり、活発な意見交換の様子が議事録から窺える。事業所は会議終了後に意見や提案の検討会議を持ち、運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関してわからない事柄について各担当者に相談し助言をいただいている。	手続きや運営上で分からないことは、窓口へ出向いて相談している。また、地域包括支援センターとは日頃から連絡を取り合い、事業所内部研修の内容など相談出来る関係がある。行政から情報を得たり、市主催の研修会へ職員が参加するなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての施設内研修を実施し、基本方針の共有やケアの質の向上に努めている。	身体拘束の法人内研修を年1回、職員全員参加で実施している。管理者は、スピーチロックを含め支援で気になるところは、その都度指導している。職員同士も注意しあっている。日中の玄関の施錠は無く、外へ出る利用者には付き添うなど、拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修会に参加したり、ミーティング時に検討し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習しているが、今活用しているケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や状態変化に応じて家族が理解や納得が出来る様に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時には意見や要望を伺い対応をしている。	苦情の取り扱いは契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。家族が週に1～4回来訪しており、意見や要望は主に訪問時に聞いている。家族から利用者のできることは何でもさせてほしいという要望があり、職員は家族の要望や意見を支援内容に反映させ、日々の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聴き、会議にて意見を出している。	職員は、プライベートやシフトに関する相談を管理者に直接伝えており、職員の研修希望は、管理者がシフトの調整を行い、受講している。介護の方法や提案は、申し送り時に伝え職員間で共有している。施設長は、日々来所し職員一人ひとりに声掛けし、事業所全体が意見や提案が言いやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聴き反映できるよう、職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修にできるだけ参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・東部ブロックの事業所での研修を通じて、交流や意見交換の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で家族から生活歴を伺い、その人らしく安心して生活できる環境作りに努め、本人の意思を尊重し、本人の希望に添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に家族が不安や困っていることを聴き、ホームでの生活に対する意向や要望もうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族へのアセスメントを行い、要望や必要な支援を見極める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのやりたいことや家事などのできることを毎日の生活の中で取り入れて、その都度感謝の言葉を伝え、暮らしを共にするものとしての関係を気づくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の日々の近況などを伝え、家族と過ごす時間を大切にしている。また、家族との外出や外泊等の支援協力もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類、友人や知人の方々に、いつでも面会して頂ける雰囲気作りを心掛けている。家族の協力を得て、墓参りや法事などにも出かけられている。	行きつけの理容院に出掛けたり、馴染みの美容室の来所がある。料理教室の元生徒の面会があり、関係が継続している。墓参りや法事は家族の支援で出掛けている。職員は、家族の意向で利用者の知り合いへの年賀状出状の手伝いをする等、関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性を考慮し、テーブル席も目的に合わせて環境整備を行い、よき関係が保たれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で本人の意向の把握に努め、職員間で共有し希望に添えるように検討している。	職員は、利用者の思いや希望を居室やソファで個別に聞いている。家族より居室で利用者の好きな歌のCDをかけてほしいという要望があり、職員は利用者と一緒に歌い、本人・家族の思いを叶える支援を実践している。汲み取った思いや意向は申し送り時に伝え、個人記録に記載し職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を傾聴し、その人らしく生活が続けられるよう生活歴や趣味などを把握し、職員間で情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の状態を毎日把握するように努め、変化があれば伝えあい情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや定期的なモニタリングを実施して、職員全員でより良いケアを目指している。	職員は、利用者の思いや家族、医師の意見を聞き、支援内容を立案し、ケアマネージャーが作成し、家族の同意の署名を得ている。職員は、日々支援内容の評価を記録し、月1回のミーティング時にカンファレンスを行い、支援内容を検証し継続・見直しの評価を行っている。状況の変化時はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況をケース記録に記入し、申し送りをを行い情報を共有し、職員が同じケアが出来る様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じた柔軟な支援や対応がでる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からの情報や広報等で、地域資源を把握し、地域の行事に参加出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携で受診や往診を行い、その都度家族に経過報告を行っている。	かかりつけ医は利用者、家族の意向に沿って決めている。受診支援後は同行の職員、家族が相互に報告し共有している。毎日、母体医院からの往診があり、週1回の訪問看護や24時間対応の医療連携体制がある。また、夜間急変時の対応を職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づき等は速やかに報告し、助言や指示を貰うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先での情報を共有し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明し、状態の変化時や終末期には意向を聴き、プランを作成している。看護師との連携と情報の共有を行っている。	重度化や看取りの対応についての指針を明文化し、契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。状態の変化に応じ、医師や家族と話し合い、その都度確認し同意の署名を得ている。職員は研修を受け、看取りの支援に努めている。24時間医療連携体制の下、看取りの事例は多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し職員全員が周知し、救急救命の受講もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は隔月実施している。研修にも参加している。	年1回消防署立ち合いの下、夜間想定火災避難訓練を実施し、2ヶ月毎に夜間想定自主訓練に取り組んでいる。運営推進委員や地域住民から見守りの約束を得、備蓄や非常持ち出し品を整備している。管理者は自然災害の研修に参加し、マニュアルの整備や対応を確認している。しかし、避難訓練の実施はこれからである。	昨今の自然災害を鑑みて、避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた言葉かけを行う事もあるが、基本敬語を用い、笑顔を心掛けている。	利用者へは苗字にさん付けで呼び、居室に入るときは声掛けやノックを励行し、排泄誘導や入浴時は、羞恥心に配慮した声掛け、支援を心掛けている。また、職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。個人情報の取り扱いについては契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。ただし、写真掲載の同意はこれからである。	プライバシー保護の観点から、写真掲載に関しては、家族の同意の署名を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴をして本人の思いを知り、希望を伝えやすく、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活出来る様に、場所と時間に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれが馴染の理美容を利用されている。洋服等も自由に着たい服を選んできてもらえるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺い、献立を決めたりメニューを書いて頂いたりしている。食材の下準備を手伝ってもらったりもしている。	献立は利用者の要望を聞き、1週間を目安に季節の食材を取り入れている。職員が交替で調理し、アレルギーや好き嫌いを把握し、代替えで提供している。利用者は食材の下ごしらえや味つけ、調理法など職員に助言している。行食事や外食もあり、職員は工夫しながら食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に応じた食事形態にて全量摂取してもらえるよう努めている。脱水にならないように、小まめな水分補給を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けと、その方が出来ない部分の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に合わせた声掛けや誘導・介助を行い、自立に向けて支援を行っている。	排泄に関して利用者の力を把握し、できない部分だけ介助する方向で支援している。トイレが各居室にあり、多くの利用者は夜間もトイレでの排泄である。病院で寝たきりの利用者が、利用開始後リハビリパンツにパッド使用に変更したことで、ベッドから伝い歩きでトイレ使用となった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分量や乳製品を活用し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調と、その時の気分を尊重して、無理のない入浴を心掛けている。楽しめる入浴となるよう工夫している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の体調に合わせ、入浴できない場合は清拭で対応している。失敗時はその都度シャワー浴や入浴で対応している。節句の菖蒲湯、冬至のゆず湯、父の日のバラ湯など楽しんでいる。浴室、脱衣所の温度管理もできており、更に利用者のリスクを考慮し浴槽に補助の器具を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や生活習慣により、休息でき安心できる居場所を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による説明と相談・助言を貰っている。職員間での薬の情報の確認と共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を把握し、個々に合ったお手伝いを役割分担して、充実感や達成感を得られ、レクリエーション等にも活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外食支援・お花見・交流会などで外出している。また、ご家族と買い物や外食にも出かけられている。	家族の来訪が多く、家族支援で買い物や散歩、外食に個別に出掛ける機会が多い。事業所は2階にあるため、リビングは日当たりがよく、天気の良い日は窓を開け外気浴を楽しんでいる。季節のドライブや保育園との交流会、外食など車椅子利用者も一緒に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は本人と家族の意向にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて支援している。年賀状を出される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方らしい部屋作りでくつろいでもらえるように支援している。フロアでは季節を感じられるような空間を作り、空調や照明にも配慮し、居心地良く過せるように工夫している	リビングに続くオープンキッチンからは、食事の準備の音や匂いが利用者の五感を刺激している。リビングのソファや小上がりの畳敷きの和室の陽だまりで、利用者が寛いだり、昼寝を楽しむ様子がある。壁面には季節の作品を飾り、掃除や換気は毎日職員が行い、居心地のよい共有空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれがお好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好む設えになるよう家族の意向を聴き、居心地良く過してもらえるように努めている。	全居室にベッド、クローゼット、トイレを設置している。持ち込みは自由で、ラジオやテレビ、愛用の毛布や布団等持ち込んでいる。利用者の趣味の盆栽や料理などの本があり、プレゼントの花や家族の写真などを飾り、個性を感じる居室となっている。職員が毎日、掃除や換気を行い、清潔で居心地よい居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた安全対策を考慮し、移動スペースを広くとり安全に生活が続けられるように支援している。		